

コピーを手掛けたCMが 民放連盟賞最優秀賞

関西大学の特色を等身大に表現

◎社会学部3年次生
前田 奈美 さん

日本民間放送連盟賞は、年1回、全国の民放各社からのエンターを対象に優秀な番組・CM、業績を顕彰する権威ある賞。2013年秋に行われた表彰式では受賞者の1人として社会学部マス・コミュニケーション学専攻^(*)3年次生の前田奈美さんの姿があった。彼女が関西大学を紹介するコピーを手掛け、FM大阪が制作したCMがラジオCM第1種最優秀賞に選出されたのだ。^(*)2013年度入学生よりメディア専攻に改称



▲日本民間放送連盟賞の受賞トロフィーを持つ前田さん

前田 奈美—まへだ なみ
■1993(平成5)年、大阪府生まれ。大阪府立阪南高校卒業。社会学部3年次生。手掛けたコピーをもとにFM大阪が制作したCM「関西大学篇」が、平成25年日本民間放送連盟賞ラジオCM第1種(20秒以内)部門最優秀賞を受賞。中高生時代から読書感想文で羽曳野市代表になるなど高い文章力を発揮。好きな作家は重松清。

「関大出身の社員がいる」と始まる今回のCMは、フィギュアスケート選手、小説家、警察官、お笑い芸人、肝っ玉母さん、国会議員と、関西大学で学ぶことで広がる可能性をテンポよく表現し、最後は「さあ、関西大学で何しよう」という問いかけで締められている。大学の広告にありがちな学術的先進性や教育効果などを並べるのではなく、学生の等身大目線の表現が好印象を与え、日本民間放送連盟賞ラジオCM第1種最優秀賞受賞につながった。

ジャーナリズム実習の授業で、「自分の学校の広告を考えてください」という全国FM放送協議会主催のJFN学生ラジオCMコンテストの募集を知ったのが、受賞までの道のりの始まりだった。関くものがあった彼女は帰りの電車の中で早速、コピーをまとめ、降車するまでの間にスマホから送信するという驚きの早技で応募した。

コピーは見事大阪代表に選ばれ、FM大阪のスタジオで収録が行われた。第一線のディレクターが演出し、ナレーターには美声で名高い畑中ふう氏が起用された。自分の書いたものが人気ナレーターの声で作品に仕上がっていく瞬間に立ち会って、鳥肌がたった。ただし、「もう少し落ち着いた調子で」と臆することなく注文を付けることも忘れなかった。学生ラジオCMコンテストでは入賞できなかったが、コピーの良さを疑わなかったFM大阪の担当者が民間放送連盟賞に推薦し受賞へと導いた。

中学の頃には、既に広告好き。誰にも頼まれないのに、自分の中でコピーを考えたりしていた。広告について勉強しようと

LEADERS NOW!

決心したのは、大成建設の広告の「地図に残る仕事。」というコピー。「たったの一行の活字なのに、働く人の姿やその家族との風景や、いろいろな映像が浮かんで来て、言葉の力ってすごいって思ったんです」。言葉と伝えることへの関心を深めた前田さんが、本学の社会学部マス・コミュニケーション学専攻を選んだのも自然なことだった。

入学後、2年次には地域活性化をテーマに活動する学生団体の吹田クリエイティブムーブメントに1年間参加した。そこでの出会いが、多様な個性が共存する関西大学の印象を彼女の中で強くした。

「日頃から本当にさまざまな人がいる大学だと思っていました。その実感をコピーで表現することを第一に考えました。関大は本人がやろうと思えば、個性を自由に発揮し、自分を見つめられる場所だと思います。今は言葉を使う仕事に就きたいと思っています。自分がいいと感じた物を、自分なりの表現で伝えることができた時が私にとってはうれしい瞬間なんです」

4月からは最終学年。「さあ、関西大学で何しよう」という問いに対する答えは彼女の中ではもうはっきりしている。ぶれない希望を胸に抱いて、前田さんの挑戦は始まったばかりだ。

受賞CMは、http://www.kansai-u.ac.jp/mt/archives/pdf/130925_n_KansaiUniv.mp3で聴くことができる。



関大出身の社員がいる。
関大出身のフィギュアスケート選手がいる。
関大出身の警察官がいて、お笑い芸人がある。
関大出身の肝っ玉母さんがいれば、国会議員もいて、
そして関大出身の、あなたになる。
さあ、関西大学で何しよう。

お参りは自分と向き合い 感謝を報告する心の時間

京都・清水寺の次世代を担う僧侶

◎清水寺僧侶
大西 英玄 さん —社会学部 2001年卒業—

『源氏物語』『枕草子』にも登場し、平安時代から常に多くの参拝者を迎えてきた京都・音羽山の清水寺。2001年に関西大学社会学部を卒業した大西英玄さんは、誰もが知るこの古寺の執事補を務める僧侶だ。



沈む夕日に極楽浄土を想う日想観を行う西門で

清水寺の中にある成就院で生まれ育ち、小学校5年生で得度した。祖父は名僧とうたわれた大西良慶さん。良慶和上は貫主を務めていたときに清水寺を本山として北法相宗を設立した。そのような特別な環境に育った大西英玄さんだが、関西大学での彼のキャンパスライフはごく普通のものだった。

寺を出て、吹田市内に一人暮らし。髪を無造作に伸ばし、当時の社会学部産業心理学(現 心理学)専攻で広告を学び、将来は広告代理店で働くことをイメージしたこともあった。スキーサークルに所属し冬は八方尾根で滑った。大阪・梅田の東通商店街のカラオケ店で3年以上アルバイトも経験した。僧侶として生きることをまだ決めていたわけではなかったが、卒業が近づくにつれ、寺に戻る方へと心は傾いていた。

「私がここに生まれたことにも何か意味がある、受け入れればよいと教えてくださる方がいました。僧侶が多くの人の幸せに役立つ、一生をかける重みのある仕事だと感じるようになりました。あの時、この道を選んで意味があったのだと行く行く思えるように生きる、その途上に私は今いるのだと思っています」

卒業後、アメリカに2年間留学。帰国後、高野山での修行を経て、清水寺に入った。

清水寺の僧侶の毎日は多忙だ。僧侶は8人しかいないため、



清水寺 スペシャルサイト
<http://feel.kiyomizudera.or.jp>



分担して寺の業務にあたる。年中行事、月例の行事、仏事はもちろん、森清範貫主の法話行脚に随行することもあれば、仏教会をはじめ諸団体の会議や催しも多い。世界宗教者平和会議など海外へ出向く機会もある。また、大西さん自身が法話や原稿や書をしたためることも多い。また、参拝者の案内も大切な務めだ。

大西 英玄—おおにし えいげん
■1978(昭和53)年、京都府・清水寺成就院に生まれる。1996年平安高校(現龍谷大平安高校)、2001年関西大学社会学部を卒業後、米留学、高野山で加行。2004年より清水寺録事を務め、2013年より執事補。祖父は元貫主の故・大西良慶和上。

「大小併せて、ご案内する団体は年間100組はゆうに超えます。どんな著名な方が来られても、どこの国の方が来られても同じ心持ちでお迎えます。短い時間の中で、心を通わせて、私を通じてこの寺に親しみを感じていただきたい。修学旅行生、外国の方々、レンタル着物の女性グループ、西国巡礼の方などさまざまな方々の小さなご縁がこの境内で育まれるというのが、清水寺の有りようだと思います」

大西さんを含め、30代の若手僧侶が4人いる。彼らは力を合わせてこれからの清水寺を担っていこうとしている。

「清水寺は1200年間ずっと庶民に支えられてきました。特定の誰かのためではなく皆の心の拠り所であることが清水寺の特徴です。訪れていただいて景観を楽しんでもらうだけでもいい、空気を感じてもらうだけでもいいのです。それが信仰の入口となって、何度か足を運ぶうちに感じ方が違ってくるかもしれない。仏に向き合うことは、自分自身に向き合うことと同じです。忙しい毎日の中では、自分自身に向き合う時間も無いでしょう。お寺は自分が今この場にいるために、どれだけの支えがあったおかげなのかを振り返る場になります。お参りすることは、願い事をするのではなく、『今日、元気にこうやって清水寺に来ているのは、何々のおかげです』と“ありがとう”を報告する機会だと思うのです」

そういう心の時間を持つ人が少しでも増えてほしいと、大西さんの発案で2013年10月に新しく清水寺のウェブサイト(スペシャルサイト) <http://feel.kiyomizudera.or.jp> を開設するなど、新たな試みを始めた。「伝統は革新の連続」という言葉を伺ったことがあります。今の清水寺を見せられるのは今の私達にしかできない。次に引き継がれるまでのほんの一役ですが、この一つ一つの革新が伝統をつないでいくことになるのだと思います」

